

写真展『EYE SEE TOHOKU～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～』 仙台市内3会場で開催
東日本大震災で被災した東北3県の子子どもたちが撮影した写真展を仙台で開催しました。今年3月から5月まで、ニューヨーク、東京、宮城県庁、相馬市、石巻市、大槌町にて開催した写真展です。子どもたちの素直な表現に、来場された方々からはたくさんのあたたかいメッセージが寄せられています。2006年からソニー株式会社のご支援のもと実施されている「子どもデジタル写真プロジェクト」を“EYE SEE”と呼び、これまでに7カ国で実施してきました。子どもたちはイタリア人の写真家ジャコモ・ピロツィ氏から本格的な撮影の指導を受けました。



エスパル仙台 本館1Fエスパルススクエアで、6/11～6/23 展示。入り口にはパネル展を案内するポスターが掲示されていました



エルパーク仙台 5階展示ギャラリーで7/2～7/8 展示しました。こちらでは同じ写真でも「壁面用パネル」を使用しました。



仙台国際センターで開催された『世界防災閣僚会議』のサイドイベントとして、7/3～7/4の両日展示され、80カ国の閣僚の方々に見ていただきました。

石巻市立井内保育所の落成式開催……

東日本大震災で施設が使えなくなった井内保育所の新築工事が終了し、7月14日、子どもや保護者が参加して落成式が行われ、完成を喜びました。木の香りがやさしい建物で、床暖房設備や太陽光パネルも設置され、天井の高い遊戯室は「ユニセフタワー」と呼ばれます。亀山紘市長に「カギ」をお渡しし、子どもたちはいしびょんとともにくす玉を割り、お礼の歌や踊りを元気いっぱい披露しました。



プレートの除幕式（亀山市長と子どもたち&いしびょん）



あ
り
が
と
う
の
メ
ッ
セ
ー
ジ

埼玉県ユニセフ協会のみなさん……



7月18日、埼玉県からボランティアのみなさんが、被災地応援にいらっ

しゃいました。宮城のボランティアもバスに同乗させていただき、社内でも交流することができました。ご案内したのは南三陸町です。ユニセフの支援活動について、宮城フィールドオフィスの若林直子が説明と案内役を務めました。ほとんどの方が被災地に入るのが初めてでした。百聞は一見にしかず。いろいろ伝えてくださいね！

井内保育所・ぞうぐみのみなさんからの「ありがとうのメッセージ」……日本ユニセフ協会早水専務がいただきました

“いないはいくしょがあたらしくなりました。ともだちとげんきいっぱいなかよくあそびます。ちいさいおともだちにやさしくします。おきゅうしょくもりもりいっぱいいたべます。ぴかぴかのはいくしょができてとってもうれしいです。あたらしいはいくしょをつくってくれて ありがとうございました。”